

お金の豆知識

新しいお札の偽造防止には、

+2000

2004年（平成16年）11月1日、日本銀行券（一万円、五千円、千円）について、偽造に対する抵抗力を強化するために、改刷（銀行券のデザインを一新すること）が行われました。日本銀行券の改刷が行われたのは、1984年（昭和59年）以来20年ぶりのことです。

今回の改刷は、最近における偽造券の増加に対応したもので、最新の偽造防止技術を採用してい

ます。採用する偽造防止技術の選定は、以下のコンセプトに基づいて行われています。

偽造防止技術選定のコンセプト

- ①パソコン関連機器による偽造券の作成を困難とするもの
- ②現金取扱機器の検知能力強化に資するもの
- ③視覚による偽造券の発見を容易にするもの

— 新券の図柄 —

新一万円券



表（肖像） 福沢諭吉



裏 平等院の鳳凰像（国宝）

新五千円券



表（肖像） 樋口一葉



裏 「燕子花園」（国宝）
江戸中期の画家、尾形光琳の作品

新千円券



表（肖像） 野口英世



裏 富士山と桜

どのような技術が使われているのですか？

— お札の偽造防止技術 —

新一万円券には、さまざまな偽造防止技術が使われています。

深凹版印刷

新券の図柄は、従来のお札よりもインキが表面に盛り上がるように印刷されています。



すき入れバーパターン

光に透かすと、すき入れられた3本の縦棒が見えます。従来のすかしよりも、パソコンやカラーコピー機等で再現しにくいものです。



パールインキ

お札を傾けると、左右の余白部にピンク色を帯びたパール光沢のある半透明な模様が浮び上がります。



特殊発光インキ

表の印章（日本銀行総裁印）に紫外線をあてるとオレンジ色に光るほか、地紋の一部が黄緑色に発光します。



マイクロ文字 すき入れ マイクロ文字

パールインキ



識別マーク（深凹版印刷）

マイクロ文字



識別マーク（深凹版印刷）

目の不自由な方が指で触って識別できるように、従来の「すかし」に代えて一層ざらつきのある「深凹版印刷」によるマークを導入しています。

ホログラム

角度を変えると、画像の色や模様が変わって見えます。



潜像模様

お札を傾けると、表面左下に「10000」の文字が、裏面右上に「NIPPON」の文字が浮び上がります。



マイクロ文字

「NIPPON GINKO」と書かれた小さな文字が印刷されています。従来の文字よりも小さい文字を取り入れているほか、新たに地紋（細かい曲線などで描かれたお札の地模様）にも大小取り混ぜた文字がデザインされています。

すき入れバーパターン すき入れ

マイクロ文字



マイクロ文字

